

◇JR路線維持に全力 滝口信喜道議（室蘭市）の道政報告会が11日、室蘭市市民会館で行われ、滝口道議はJR室蘭線の東室蘭―室蘭間について「いずれは（見直し）議論の対象となり得る」との認識を示した＝写真＝。

その上で「地域の公共交通を守ることは、地域で暮らすための前提条件」と話し、路線維持に尽力する姿勢を見せた。



結成3年目を迎えた道議会会派の「北海道結志（ゆうし）会」については「いいものはいい、悪いものはダメという立場で取り組んできた2年間だった」と総括した。

この日は、青山剛室蘭市長のほか、市民ら約330人が出席した。

北海道新聞 2017年5月12日



## 「JRの路線維持を」

### 滝口道議が道政報告会

室蘭

滝口信喜道議（室蘭市区選出）の道政報告会が11日夜、室蘭市輪西町の市民会

「JRの廃線は道内の過疎問題に拍車を掛ける」と訴える滝口氏

館で開かれた。JR北海道が、全路線の半分を単独維持困難とした問題について「公共交通機関を守ることは地域で暮らし続ける前提条件」と路線維持の重要性を訴えた。

「鉄路を失った地域は病院や学校がなくなり、道内の過疎問題に拍車を掛けることになる」と廃線の悪影響を説き、議論を深める必要性を強調した。

報告会は滝口道議の連合後援会と連合室蘭の主催。市民ら330人が参加した。（池田勇人）